

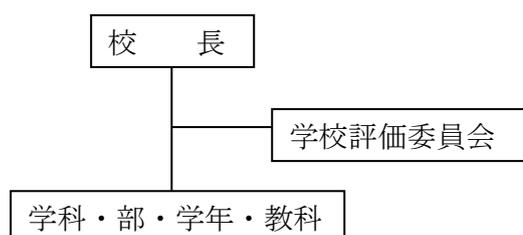
I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

「教育目標」と「我等の信条」が本校の『学校経営・運営ビジョン』の根幹となっている。これを実現するために4つの努力目標を設定し、さらに努力目標の実現のための具体的な下位目標を設定している。

前年度の分掌ごとの反省や学校全体として取り組むべき課題をもとに、年度初めに校長により『学校経営・運営ビジョン』が示される。

2 校内組織体制について



各学科・各部・各学年・各教科等の実践を組織横断的に評価するために、校務分掌組織とは別に学校評価委員会が組織されている。

3 自己評価年間計画について

月	学校評価委員会の活動	学校評議員の活動
4月	「学校経営・運営ビジョン」の策定	
5月		
6月	第1回学校評価委員会	
7月		第1回学校評議員会
8月		
9月		
10月	第2回学校評価委員会 アンケート内容の検討・回収方法など	
11月		
12月	アンケートの実施・アンケートの集計 アンケートの分析	第2回学校評議員会
1月	委員による事前分析	
2月	第3回学校評価委員会 学校評価のまとめ 「自己評価実施報告書の作成」	
3月	アンケート結果を反映した学校運営の提言	第3回学校評議員会

II アンケートの概要

1 実施時期、実施方

教員	11月24日配布12月8日〆切	無記名	選択方式
生徒	11月27日配布12月8日〆切	記名	選択方式
保護者	11月27日配布12月8日〆切	記名	選択方式

- ・今年度も昨年度同様アンケートによる評価は1回のみ、11月下旬に実施。
- ・アンケートは生徒、保護者、教員を対象に、それぞれの設問数16、16、15として調査をした。設問1～12はビジョンに示される項目を評価する内容であり、設問13～16はビジョンに関わらない学校全般を評価する内容とした。今年度は、保護者にも一斉メール登録の有無を追加した。
- ・保護者は、従来通り記名とした。ただし、プライバシーの保護を考慮して封筒に入れて回収することにした。

2 アンケートの回答数

対象	H29年度のアンケート			H28年度のアンケート			H27年度のアンケート		
	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合
生徒	704	690	98.0%	712	703	98.7%	707	646	91.4%
保護者	704	567	80.5%	712	541	75.0%	707	425	60.1%
教職員	75	73	97.3%	76	70	92.1%	70	65	92.9%

- ・昨年度と今年度の回答割合を比較すると、生徒は0.7%の減。保護者と教職員は、それぞれ5.5%、5.2%増であった。
- ・[来年度に向けて]教職員・保護者からの回答割合が増加している。これは、未提出者への呼びかけと、直接生徒と関わる担任からの呼びかけが、回答率向上に大きく貢献したと思われる。引き続き、回答割合100%にすべく、丁寧な呼びかけを実施したい。

3 評価基準について

- ・それぞれの項目の達成度を1～4の評価基準で回答を求めた。4段階評定としたのは、中間回答（どちらでもない）の層を、肯定的評価または否定的評価のいずれかに振り分けるためである。
 - ・回答4と3の合計を肯定的評価、2と1の合計を否定的評価に分けて、アンケート結果を評価考察した。
- ※ 一斉メール登録の有無に関しては、「はい・いいえ」の二択とした。
- ※ 自由記述は、設けなかった。記載したある場合には、書き出した。

4 アンケートによる評価のまとめ

アンケート結果の分析

努力目標（1）「学習意欲の育成」に関して

《データ》 ※（ ）は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 1 本校では、ものづくりをとおして、知識、技術・技能を修得できると思いますか | 98.7% (98.0%) |
| 2 授業方法は工夫されていると思いますか | 89.3% (85.9%) |
| 3 授業に積極的に取り組むようになりましたか | 86.8% (87.8%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|---|---------------|
| 1 本校では、ものづくりをとおして、知識、技術、・技能を修得できると思いますか | 98.4% (98.9%) |
| 2 授業の参観や、またはお子様の話から、本校の授業はわかりやすく展開されていると思われませんか | 81.1% (82.8%) |
| 3 お子様が学習している科目の内容や評価のしかたについてご存じですか | 62.3% (59.3%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 1 本校ではものづくりをとおした知識、技術・技能が修得できる体験型の学習の充実を図ることができていますか | 95.9% (92.9%) |
| 2 わかりやすい授業をするために、授業の工夫を行っていますか | 97.3% (94.3%) |
| 3 学ぶ意欲を引き出す評価の工夫・充実を図っていますか | 89.0% (90.0%) |

《考察》

努力目標（1）「**学習意欲の育成**」に関しては、昨年同様いずれも高い評価が得られている。

設問1の「ものづくりをとおして知識・技術・技能を修得できる」とした回答は、生徒・保護者で98%を超え特に高い評価を得ている。教員の評価も昨年度より上昇し95.9%とやはり高評価である。本校の特徴である「**ものづくり教育**」が生徒・保護者に浸透していると考えられる。

設問2の「授業方法の工夫について」は、教員は肯定的回答が97.3%と昨年度より3.0ポイント上昇し、高い評価をしている。生徒の評価も89.3%と昨年より3.4ポイント上昇しており、教員の取り組みがある程度生徒に評価されている。しかし、生徒と保護者の評価は、教員よりも8~16ポイントあまり低く、教員の認識とは大きなギャップがある。教員には現状に甘んじず、常に生徒の実態に合わせた授業の工夫が求められる。

設問3の教員の「生徒の意欲を引き出す評価の工夫を図っているか」の肯定的回答は、昨年より1.0ポイント下がったが89.0%と高い評価である。生徒の「授業に積極的に取り組むようになったか」の設問も昨年より1.0ポイント下がったが86.8%と比較的高い評価である。しかし、学年別でみると1年90.1%、2年85.2%、3年85.0%と学年が上がるほど下がっている。継続して生徒の意欲を引き出す工夫が必要である。保護者の「科目の内容と評価方法を知っているか」については、例年肯定的回答が他の設問に比べかなり低くなっている。家庭で学校の話題がでてくるように、学校からの情報発信を充実しなければならないだろう。

努力目標（２）「職業観の育成」に関して
 《データ》 ※（ ）は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|---|---|---------------|
| 4 | 企業見学・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、1年次から自分の進路を考えるようになりましたか | 83.9% (83.4%) |
| 5 | インターンシップなどは、将来の職業を考える上で有益だと思いますか。 | 92.0% (94.2%) |
| 6 | 講習会や課外指導に参加するなど、資格取得や検定合格のための努力をしていますか。 | 78.5% (78.9%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|---|---|---------------|
| 4 | 企業見学・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、1年次から進路意識を啓発するための指導が行われていると思いますか。 | 94.5% (95.6%) |
| 5 | インターンシップなどは、お子さまが進路実現を図る上で有益だと思いますか。 | 96.5% (95.7%) |
| 6 | お子さまは、資格取得や検定合格のために、講習会や課外指導に参加するなどの努力をしていますか。 | 81.1% (81.4%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|---|--|---------------|
| 4 | 企業見学会・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、進路意識の早期啓発を促すことができていると思いますか。 | 95.9% (97.1%) |
| 5 | インターンシップをとおして、生徒のキャリア教育の充実を図ることができていると思いますか。 | 95.9% (94.3%) |
| 6 | 各種資格検定合格のための支援体制は十分だと思いますか。 | 78.1% (77.1%) |

《考察》

努力目標（２）「職業観の育成」に関しても、概ね高い評価であった。

設問4の生徒の「自分の進路を考える様になったか」については学年間の差が大きく、肯定的評価が1年生は83.5%、2年生は89.2%、3年生は78.8%であった。学年ごとの評価の傾向は昨年と同じで、1年生から2年生へと進路意識が高まっていく傾向がわかる。3年生は、進路決定後のアンケート実施だったため意識が低下したと思われる。生徒全体の評価は、保護者・教員に対し10ポイント以上低く、様々な機会を通して進路意識の啓発や指導が大切である。

設問5の「インターンシップなど」は、生徒・保護者・教員とも高い評価で、インターンシップの効果が共有されている。生徒・保護者の学年ごとの評価では、2年生の評価が生徒94.8%、保護者98.3%と特に高く、実際に体験した直後の生徒・保護者が、インターンシップの効果をより実感しているのがわかる。教員の評価は、肯定的回答全体は高いが、『特にそう思う』は45.2%で、生徒56.2%、保護者63.1%に比べ低くなっている。

設問6の「資格検定への努力や支援体制について」は、生徒・保護者・教員とも他の設問より評価が低くなっている。また、肯定的回答のなかでも『特にそう思う』（生徒35.1%、保護者38.5%、教員27.4%）より『少しそう思う』（生徒43.4%、保護者42.6%、教員50.7%）が多くなっている。教員でその割合が高く、教員は特に資格への支援体制が十分でないと感じている。放課後の補習は、部活動との両立が難しい場合も多いが、生徒の意欲向上を導き実効性のある指導体制を築く必要がある。

努力目標(3)「社会性の育成」に関して
《データ》 ※ () は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|------------------------------------|---------------|
| 7 自律した生活を送り、校則や社会のマナー・ルールを守っていますか。 | 94.5% (94.6%) |
| 8 環境美化や省エネを心がけていますか。 | 81.1% (80.7%) |
| 9 部活動に積極的に参加していますか。 | 80.9% (82.4%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 7 お子さまは、基本的な生活習慣が確立され、校則や社会のマナー・ルールを守っていると思いますか。 | 93.7% (95.6%) |
| 8 お子さまは環境美化や省エネに心がけていますか。 | 74.1% (75.0%) |
| 9 お子さまは部活動に積極的に参加していますか。 | 83.3% (82.5%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 7 HR、服装頭髪指導、登校指導、部活動をとおして、社会性・規範意識や基本的な生活習慣を身につけさせる指導に力を入れていますか。 | 91.8% (92.9%) |
| 8 校内美化、省エネの推進、実習での服装指導などとおして、環境と安全に対する意識を高める指導に力を入れていますか。 | 80.8% (80.0%) |
| 9 生徒が部活動を通して社会性を身につけ、自己実現を図ることができるように配慮していますか。 | 89.0% (85.7%) |

《考察》

努力目標(3)「社会性の育成」に関しても、全体としては高い評価であった。

設問7の「社会のマナーやルール」への肯定的評価は、生徒が94.5%、保護者93.7%、教員91.8%とかなり高い。詳しく見ると『特にそう思う』は生徒全体が51.0%、1年生46.3%、2年生49.6%、3年生57.3%で上級生ほど意識が高い。保護者の『特にそう思う』も48.5%とかなり高い。教員の『特にそう思う』は32.9%と低く、肯定的評価も昨年より1.1ポイント下がっている。最近、生徒の服装や頭髪など校則が比較的良く守られており、教員の指導意識が少し低くなっているのかもしれない。

設問8の「環境美化・安全・省エネ意識」は比較的评价が低くなっている。『特にそう思う』は、生徒30.3%、保護者18.9%、教員20.5%で、生徒の値が高い。生徒と保護者の環境美化や省エネに対する意識にずれがあり、教員も環境と安全に対する教育は十分でないと考えているようだ。環境美化・省エネの意識を身につけさせる継続的な指導が必要である。家庭向けにHPやPTA総会・方部会等を利用して、継続した呼びかけが大切である。

設問9の「部活動の積極的参加」については、生徒の80.9%が肯定的評価で昨年より1.5ポイント下がっている。しかし、52.5%の生徒が『特にそう思う』と答えており、生徒の多くが部活動に積極的に取り組んでいる様子がうかがえる。一方、19.1%の生徒が否定的な回答だった。これには資格取得の勉強、遠距離通学などで部活動に積極的に参加出来ない生徒も含まれると推測されが、本校の努力目標である「部活動をとおし社会性を身につけ自己実現を図る」ためにも部活動の活性化をさらに進めたい。保護者の肯定評価は83.3%、教員は89.0%と生徒の評価より高く、昨年よりも増加している。保護者の部活動への期待の高さ、教員の部活動への積極的な取り組みが見て取れる。

努力目標（４）「地域との連携推進」に関して
 《データ》 ※（ ）は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|--|---------------|
| 10 | 学校からの配布物をきちんと家族に渡していますか。 | 79.8% (81.1%) |
| 11 | 企業の技術者による講義や研修などに積極的に取り組んでいこうと思いませんか | 91.4% (91.2%) |
| 12 | 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、外部に適切に発信されていると思いますか。 | 82.8% (82.8%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|--|---------------|
| 10 | 学校からの配布物、ホームページ、一斉メール、PTAの各種会合などによって、知りたい情報を得ることができていますか。 | 82.9% (82.6%) |
| 11 | 本校が地元企業との連携をいかした取り組みなどを行っていると思いますか。 | 88.1% (87.6%) |
| 12 | 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、外部に適切に発信されていると思いますか。 | 81.6% (79.7%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|--|---------------|
| 10 | 学校からの情報はHPや配布物、各種会合などをとおして、有効に発信されていると思いますか | 75.3% (76.8%) |
| 11 | 「地域産業連携事業」など外部事業に関わる校内の協力体制は整っていると思いますか。 | 93.2% (79.7%) |
| 12 | 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、地域・保護者に適切に発信されていると思いますか。 | 71.2% (69.6%) |

《考察》

努力目標４「**地域との連携推進**」については、各設問70%から90%と概ね肯定的評価だったが、先の設問と比べると評価がやや低い。特に設問10と12で教員の評価が低くなっている。

設問10の、生徒の「学校の配布物を保護者まで届けているか」は79.8%であるが、『特にそう思う』は昨年度より2.5%改善したが37.9%と低く、さらに否定的回答は20.3%で、昨年度より1.3%増えている。配布物を届けている生徒と全く届けていない生徒の両極化が進んでいるようだ。生徒には配布物の手渡しの徹底の呼びかけと、保護者へはホームページや会合を通じてどの様な情報が得られるか等の説明も必要と思われる。

設問11の「産学官連携の推進」の状況を問う設問は、生徒、保護者、教員のすべてで一昨年に続き昨年を上回った。特に教員の評価は93.2%で13.5ポイント増え、かなりの高評価になっている。様々な取り組みが実施され、教員全体で成果を共有できてきた結果であると考えられる。

設問12の「学校運営や教育活動の公開」についての状況を問う設問では、肯定的評価は生徒82.8%、保護者81.6%、教員71.2%で、その中の『特にそう思う』では生徒30.1%、保護者23.6%、教員9.6%と他の設問に比べかなり低くなっている。従来から行われているPTA方部会や学校開放、課題研究発表会などの取組をより充実させ、さらに情報発信を行っていく必要がある。

(5) 「学校全般について」に関して
 《データ》 ※ () は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|---|---------------|
| 13 | 本校では教育相談部やスクールカウンセラーが生徒や保護者の相談活動を行っていることを知っていますか。 | 62.6% (60.2%) |
| 14 | 本校のホームページをみたことがありますか。 | 53.5% (49.4%) |
| 15 | 一斉メールに登録していますか。 | 53.0% (46.2%) |
| 16 | 本校に入学して良かったと思いますか。 | 91.3% (93.9%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|----------------------------------|---------------|
| 13 | 本校の教育相談部やスクールカウンセラーを活用したいと思いますか。 | 54.2% (50.7%) |
| 14 | 保護者としてPTA活動などの学校行事に参加されていますか。 | 36.3% (33.5%) |
| 15 | 一斉メールに登録していますか。 | 79.9% |
| 16 | お子様を本校に入学させて良かったと思いますか。 | 97.5% (97.4%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|-----------------------------------|---------------|
| 13 | 全教職員の共通理解のもとで生徒指導には取り組んでいると思いますか。 | 63.0% (58.6%) |
| 14 | 日頃、生徒と向き合う時間は十分確保できていると思いますか。 | 63.0% (61.4%) |
| 15 | 校務分掌はバランスよく仕事が割り振られていると思いますか。 | 50.7% (42.9%) |

《考察》

「学校全般について」のアンケートは、生徒・保護者と教員との設問の内容に関連性はない。他の設問に比べ肯定的な評価は低い。設問ごとに分析してみると、

「教育相談、スクールカウンセラー」は、生徒のおかれた状況が大きく影響するが、学年ごとでは1年生 56.5%、2年生 60.6%、3年生 70.8%と学年が進むほど認知度が高まっている。否定的な回答も生徒で 37.4%、保護者で 45.8%あるが、**教育相談部は精神的な安らぎや相談の場として、今後**もさらに重要性を増すと思われる。

「ホームページ」「一斉メール」「PTA活動」の設問では、肯定的回答がいずれもかなり低くなっている。特に保護者のPTA活動への参加は 36.3%で、昨年より 2.8ポイント改善したがかなり低くなっている。保護者の働く環境などから参加できないことも考えられが、学校側から工夫を凝らした呼びかけが必要であろう。保護者の一斉メールへの登録は約8割である。

「入学して良かった」は生徒、保護者とも非常に高い評価をしており、本校のものづくり教育活動に期待していただいている結果と受け止めたい。

教員対象の設問も評価は低いが、昨年度よりはいずれもわずかに改善している。

「生徒指導」に関しては、『特にそう思う』は 12.3%で否定的な評価は 37.0%もある。生徒指導は全教職員が一丸となって取り組むべきことである。再度、確認しながら指導していくことが必要である。

「生徒と向き合う時間の確保」は 63.0%で、昨年より 1.6ポイント改善したが一昨年は 12.4ポイントも下がっており、**多忙感を感じる教員は多い**ままである。

「校務分掌のバランス」については 50.7%で、昨年度より 7.8ポイント上昇している。一昨年も 10.6ポイント上昇したので、**急激に改善**してきている。しかし、今年度も『特にそう思う』はわずか 2.7%しかおらず、**今後も適切な職場環境作りに継続して取り組む必要がある**。

Ⅲ 広報の概要

アンケートの結果については、全教職員に配布。来年度の取り組みへの参考資料にするとともに、HPに掲載。また、保護者には、文書や一斉メールを利用して、このことを周知する。

Ⅳ 次年度へ向けて

本年度の結果から、本校の教育活動は生徒・保護者の期待に応えて成果をあげていると判断できる。更に実りのある教育活動をするために、次年度に向けて改善・改革の道を継続して進めていく必要がある。アンケートでは見えてこない潜在課題を全教職員の議論をとおして顕在課題にし、課題解決に向けた取り組みをすることでより良い学校運営が期待できる。